

日米両政府は、岸田文雄政権発足後初となる外交・軍事担当閣僚会合(日米安全保障協議委員会、2プラス2)を開きました。同会合でまとめられた共同発表文書は、中国による東シナ海や南シナ海での活動などを批判しつつ、「地域における安定を損なう行動を抑止し、必要であれば対処するために協力する」と、日米一体で軍事的に対抗する立場をより鮮明にしました。国際ルールを無視した中国の覇権主義的行動は当然許されません。しかし、軍事対応を強化する姿勢をあらためずれば緊張がさらに激化するのには明らかで、問題解決に逆行するだけです。

対中戦略も作戦も一体

7日に行われた2プラス2は、

主張

日米2プラス2

日米が軍事一体化をかつてなく深
化させ、中国と対決していくこと
を前面に打ち出しました。

共同発表文書は「変化する安全
保障上の課題に、パートナーとと
もに、国力のあらゆる手段、領
域、あらゆる状況の事態を横断し
て、いまだかつてなく統合された

な整合」です。

岸田文雄政権は今年末、「国家
安全保障戦略」や「防衛計画の大
綱」を改定しようとしています。

共同発表文書は「日米は、今後作
成されるそれぞれの安全保障戦略
に関する主要な文書を通じて、同
盟としてのビジョンや優先事項の

「敵基地攻撃能力」であり、検
討を対米公約したのは重大です。

共同発表文書は「米軍
と自衛隊の「共同の能力を強化」
する点で、「緊急事態に関する共
同計画作業について確固とした進
展を歓迎した」と明記しました。

と符合します。

文書が、沖縄県名護市の辺野古
米軍新基地建設や、鹿児島県西之
表市の馬毛島基地建設を強調した
ことも看過できません。

平和的な外交努力こそ

共同発表文書は外交的対応につ
いてはほほ触れず、軍事一辺倒の
内容に終始しています。しかし、
日本政府に求められるのは、破局
的な戦争につながる軍事対応の強
化ではありません。

軍事一辺倒は解決に逆行する

形に対応するため、戦略を完全に
整合させる」とも「目標を優先しつ
けることに基づいて、同盟を絶えず現
代化し、共同の能力を強化する」
としました。「いまだかつてな
い」日米同盟を強化にするとい
う宣言です。

具体的にはまず、「戦略の完全

整合性を確保する」としました。

その上で「日本は、戦略見直し
のプロセスを通じて、ミサイルの
脅威に対抗するための能力を含
め、国家の防衛に必要なあらゆる
選択肢を検討する」と表明しまし
た。「ミサイルの脅威に対抗する

諸島に攻撃用の軍事拠点を置くこ
とにしているとされます(沖縄タ
イムス昨年12月24日付など)。共
同発表文書が「日本の南西諸島を
含めた地域における自衛隊の態勢
強化」とも「日米の施設の共
同使用を増加させる」として、沖縄
などの前線基地化を通じているこ

なことを懸念します。

いかなる国の覇権主義も許さな
い立場で、国連憲章と国際法に基
づき、あらゆる紛争を話し合いで
解決する外交努力です。「海外で
戦争する国」については全く、憲
法の条を生かした平和外交に徹す
るべきことを懸念します。